

第三国研修
事前調査団・実施協議調査団
報告書
—インドネシア・灌漑排水—

昭和61年4月

国際協力事業団
研修事業部

JICA LIBRARY



1056115E7J

第三国研修
事前調査団・実施協議調査団

報 告 書

—インドネシア・灌漑排水—

昭和61年4月

国際協力事業団
研修事業部

国際協力事業団	
受入 月日 61. 8. 28	108
	83.3
登録No. 15302	TA

はじめに

昭和58年6月インドネシア政府はわが国政府との協技協力年次協議の場において、当事業団が従来より「イ」国に対し協力している第三国研修・地震工学コースに加え、昭和56年よりプロジェクトタイプの技術協力が実施されている灌漑排水施工センターにおいて、わが国専門家より移転された技術をさらに近隣諸国へも波及すべく灌漑排水技術コースの開設と、それに必要なわが国の協力を要請した。わが国は昭和60年3月21日から4月2日まで同国に事前調査団を派遣し、その実施可能性を確認した。この結果にもとづき、昭和60年9月1日より7日間実施協議チームを派遣し、R/Dの署名を交わすに至った。

本報告書は、右コースの研修内容、運営等に関するインドネシア側との協議内容を取りまとめ、関係者の参考に供するため作成されたものである。

なお、本コースは昭和59年2月アセアン拡大外相会議において、提唱されたアセアン太平洋人造り協力緊急行動計画の案件として取上げられることとなった。

調査団の派遣に際してご協力をいただいた外務省・農林水産省・インドネシア側関係機関・在インドネシア日本大使館・公共事業省及び灌漑排水施工技術センターに派遣されている専門家各位に対し、ここに深く謝意を表したい。

昭和61年3月

研修事業部長

岡部和夫

目 次

事 前 調 査 団 報 告 書

1. 調 査 目 的	1
2. 団員構成および日程	1
3. 合同会議出席者	1
4. 先方関係者との討議、調査	2
5. 合 同 会 議	3
6. 検 討 課 題	4
7. 結 論	5
附属資料 Notes of Understanding	7

実施協議調査団報告書

第1章 チームの構成、調査日程	17
1. 団員構成	17
2. 調査日程及び訪問先	17
3. 主な面会者	18
第2章 調査目的及び派遣経緯	21
1. 調査目的	21
2. 派遣経緯	21
(1) 事前調査団の派遣	21
(2) アセアン・太平洋協力について	22
第3章 調査・協議結果	24
1. アセアン・太平洋協力計画との関係	24
2. 討議議事録について	25
(1) 割当国について	25
(2) 定員について	26
(3) カリキュラムについて	26
(4) カウンターパート受入について	26
(5) 機械供与について	27
(6) 短期専門家派遣について	27
(7) ジェネラル・インフォメーションについて	28
(8) 研修機関について	28
3. 公共事業省との打合せ結果	28
(1) 灌漑排水施工技術センター	28
(2) 公共事業省水資源総局灌漑第一局	29
4. 署名式	29
附属資料	
1. 覚書(MINUTES OF DISCUSSIONS)	31
2. 討議議事録(RECORD OF DISCUSSIONS)	45
3. 覚書(MEMORANDUM OF UNDERSTANDING)	58
4. 灌漑排水技術コースの要請内容	59
5. アセアン・太平洋人造り協力緊急行動計画に基づくプロジェクト実施協議	60
6. 灌漑排水施工技術センタープロジェクトの概要	61

第三国研修事前調査団報告書

— インドネシア・灌漑排水 —

昭和60年3月

1. 調査目的

インドネシア国は、食糧増産および食糧自給を経済開発計画の重要課題としている。すなわち、大きな人口に加えて高い人口増加率、天水依存の農業による食糧増産停滞など、恒常的な食糧不足の解消が急務となっている。このため、インドネシア政府は農業基盤整備を強力に推進することとしており、特にその基幹をなす灌漑水路の建設工事に重点を置いている。

このような情勢下において、灌漑排水事業に係る施工技術の向上を図るため、灌漑排水技術者への助言・指導・研修を行う灌漑排水施工技術センター（CGSC）が運営されている。

このたび、インドネシア政府は、本センターを研修実施機関とし、第三国研修を行いたい旨、要請した。同要請を以って、その要請背景、予算措置、CGSC関連施設・立地条件の調査、および同機関における技術上・運営上の問題点の把握・調査等を行い、第三国研修実施の可能性をさぐることを目的とする。

2. 団員構成および日程

a) 団員（3名）

(1) 団長

岡部和夫 国際協力事業団
大阪国際研修センター所長[※]

※ 昭和61年4月1日より研修事業部長

(2) 研修企画

安田昭彦 農林水産省
農業土木試験場研修課長[※]

※ 昭和60年4月1日より構造改善局事業計画課補助土地改良二班担当課長補佐

(3) 業務調整

小笠原健二 国際協力事業団
研修事業部研修第一課職員

b) 日程

昭和60年3月21日～3月29日（安田）

昭和60年3月24日～4月2日（岡部・小笠原）

別添日程表参照

3. 合同会議出席者

1) インドネシア側

a) Sudaryoko : Director General DGWRD

- b) Habibuddin : Chief of Training Division DGWRD
 - c) Hoedar Ali : Head of Centre for Data Processing and Mapping
 - d) A. Hafied A. Gany : CGSC Project Manager
 - e) Soewasono : Director of Irrigation I 他 7名
- 計 12名

2) 日本側

- a) 調査団員3名
 - b) 石坂リーダー
 - c) 三根リーダー
 - d) 坂本シニアカウンターパート
 - e) 美馬調整員
 - f) 大久保調整員
 - g) 佐々木ジャカルタ所員 他 9名
- 総計 21名

4. 先方関係者との討議、調査

a) 公共事業省水資源総局スダルヨコ (Sudaryoko) 総局長との協議

3月25日、JICAジャカルタ事務所山村寛所長およびCGSC石坂仁兵リーダー同行の上、本調査団はスダルヨコ水資源総局長を訪問し、今回の調査団の目的および日本側の基本方針を述べ、日本側としては「イ」側の要請を受け第三国研修を実施する方向にあるが、実施に先立ち、現状把握・情報蒐集・諸事項確認・意見交換等調査を行なう必要性を述べる一方、「イ」側のこれまでの準備状況につき質した。

同総局長は、水資源総局としては実施の方向にあるが、具体的な実施計画案・および準備状況等の詳細については第1灌漑局スワソノ (Soewasono) 局長、および同局研修部 ハビブディン (Habibuddin) 部長の両名がその策定にあたっているため、上記内容については両名と協議をされたい旨発言があった。

よって、ただちに「イ」側関係者との協議および調査を開始し、その結果一応の結論を得た時点で日イ関係者一堂の会する合同会議をもつことを約して第1回の訪問を終えた。

b) 第一灌漑局長との協議

本協議では研修内容につき話合いが持たれ、同局長は2つの研修形態につき言及した。第1は施工という狭義の形態、第2は灌漑全般という広義の形態である。

わが方としては、集団コースの性質上後者の灌漑全般の研修形態を推したが、なお詳細については安田団員・日本人専門家(計7名)、およびCGSCハフィード・ガニー (A. Hafied

A. Gany) マネージャーとの打合せを行うこととした。

c) 研修部長との協議

本協議では主に全体的なフレーム・ワークおよび行政面につき協議を行った。以下はその協議項目・内容である。

(1) 研修科目

集団コースの性質上、狭義分野(施工)ではなく広義分野(灌漑全般)を採用したため、研修科目は、“International Course on Irrigation Engineering”と決定した。

(2) 研修形態

本研修形態は灌漑全般に渡るべきものであるとのコンセンサスは得たが、第一灌漑局研修部長より研修内容はアトラクティブであるべきであり、この前提に立てばリモートセンシング等の科目を研修に組み入れたいとの意向が示され、協議の結果、同提案を受け入れることとした。

(3) 研修員資格

以下5項目のとおり合意に達した。

イ 指定期日までに所定の手続きを経て自国政府より推せんを受けた者。

ロ 大学卒業者あるいはそれと同程度の学力を有し、かつ灌漑排水関係実務に5ヶ年以上の経験を有する者。

ハ 年齢45才以下の者。

ニ 十分な英語の会話力および読解力を有する者。

ホ 研修に耐え得る精神的・身体的健康を有する者。

(4) 割当国、定員

割当国に関しては大筋において別添2 Note of Understand (N/U)、Appendix IIIの合意に達したものの、その決定については合同会議席上へ持ち越すこととなった。

定員については「イ」側は施設使用等の経済性を理由に20名を主張し、わが方は日本側の予算措置を理由に15名を主調した。本件に関しては意見の一致が見られず、割当国同様合同会議に持ち越されることとなった。

(5) カウンターパート

わが方が2名の受入れ検討の意向を示したところ、「イ」側も本案に同意を示し、2名とした。

(6) 両国政府の役割分担、実施に向けての準備スケジュール、および携行機材等

本件に関しては、別添2の項目15番、APPENDIX IV、Vをそれぞれ参照のこと。

5. 合同会議

以上の調査・協議をふまえ3月27日、わが方は“Note of Understanding”の原案を作成

し、水資源総局スダルヨコ総局長の司会の下本件関係者(3.参照)が一堂に会し、当方より上記原案を説明し、「イ」側のコメントを求めた。

以下6項目の確認・検討がなされ、別添2“Note of Understanding”を得るに到った。

- a) 研修プログラムの各項目については双方合意に達し、これに伴い第1回コースにはセミナーを組み込むこととなったため、研修期間は当初の30日が変更され33日間となった。
- b) 割当国に関し、「イ」側原案のベトナムについてわが方としては代替国としてブルネイを提示し、「イ」側の了承するところとなった。
- c) 定員については本合同会議をもってしても合意に達せず、わが方としては本件を日本へ持ち帰り討議することとなった。
- d) 両国の研修プログラムにおける役割分担については種々討議した結果、Note of Understanding, APPENDIX Iのとおり合意に達した。
- e) 「イ」側分担金については、合同会議の席上わが方より質したところ、「イ」国技術調整委員会スプラプト(Suprpto)委員により「イ」側としては13,000USドルを本第三国研修に充てるべくすでに確保済みである旨の発言があった。
- f) 今後の研修開始までのスケジュールに関し、わが方よりGeneral Informationの作成、研修員選考等一連の作業についての期日確認を行ったところ、「イ」側より本研修を昭和61年2月に開始させるためには内部手続き等の諸準備に相応の日時を要するためR/Dミッションの至急なる派遣を要請する依頼があった。

6. 検 討 課 題

a) 定 員

「イ」側は20名、日本側は15名をそれぞれ主張。

b) 周辺国研修員に係る生活費

「イ」側負担事項であるため、わが方としては参考までに日本国内で実施している研修における生活費を「イ」側へ示すことにとどめた。

c) 短期専門家の派遣分野

本件分野に関してはNote of Understanding, Appendix Iのとおり決定したが、日本側分野は4分野にわたり、しかも現地滞在中の専門家(CGSC専門家)の参加もおおぐこととなったためその分担が検討されねばならない。

d) 携行機材

N/U、Appendix Vが「イ」側より提出されたが、本件内容の査定がなされねばならない。

e) 調整員の派遣

CGSCには現在1名の調整員がその任にあっているが、本件第三国研修も併せて担当す

ることは困難であるとの意向が示された。

f) R / D ミッションの派遣

昭和61年2月に本研修を開始するに伴い、R / D ミッションの派遣を昭和60年6月に希望する旨要請があった。

g) 砂防ダム第三国研修に対する打診

本件は当調査団には直接関係なき事項であるが、「イ」側よりその実施の可能性につき連絡を受けたい旨要請があった。

7. 結 論

今回の調査の結果、十分に第三国研修を実施し得る研修内容・実施体制が整っていると判断され、また、「イ」側関係者にも同研修を実施するにあたり十分な熱意が窺える。

よって「イ」側より要請のあった灌漑コースの第三国研修は実施可能であると判断される。

以 上

附属資料 Notes of Understanding

Ir. Sudaryoko
Director General of WRD,
Ministry of Public Works,
Government of Indonesia.

The Japanese Preliminary Survey Team (hereinafter referred to as Team) organised by the Japan International Cooperation Agency (JICA) and headed by Mr. Kazuo Okabe, Director of Osaka International Training Centre, JICA, visited Indonesia from 21 March to 1 April 1985 for the purpose of making a preliminary study and discussion on the possibility of organising the Third Country Training Programme in International Course on Irrigation Engineering.

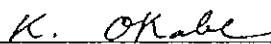
During its stay in Indonesia, the Team had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Indonesia in respect of the framework of the Programme.

As a result of the study and discussions, the Team and the authorities concerned of the Government of Indonesia came to the tentative understanding on the framework of the implementation of the Programme as mentioned in the document attached hereto.

Jakarta, April 1, 1985

cc:

- Mr. Widodo Gondowardoyo S.H.
Head, Bilateral Cooperation Div.,
Bureau for Technical Cooperation.
- Ir. Soewasono
Director of Irrigation I
- Ir. Habibuddin, Dip. HE
Chief of Training Div. DGWRD.
- DR. A. Hafied A. Gany
Project Manager CGSC
- Ir. Tubagus Maedar Ali
Head of Center for Data Processing
and Mapping.
- Ir. Soenarno
Chief of Planning & Design, DOI I.


Mr. Kazuo Okabe
Head of the Japanese
Preliminary Team

INTERNATIONAL COURSE ON

IRRIGATION ENGINEERING

The Programme will be implemented by the initiative of the Government of Indonesia and supported by the Government of Japan under its Third Country Training Programme.

The Programme will be conducted once a year-basis in accordance with the framework mentioned below.

1. BACKGROUND

Most of Developing Countries are still short of personnels having had training and experience in, water resources development's field of works, particularly in Irrigation Engineering.

2. THE PURPOSE OF TRAINING

To increase the knowledge and practical experiences of developing countries' officials in the field of Irrigation Engineering.

3. TYPE OF TRAINING

Training, Seminar and Study Tour.

4. TENTATIVE TRAINING PROGRAMME

(see appendix I)

5. TENTATIVE TRAINING SCHEDULE

(see appendix II)

6. TRAINING OUTPUT EXPECTED

- A. Joint development with the participation of the governments of developing countries in the above field of study.
- B. Technical cooperation between the Government of Indonesia and the governments from developing countries, particularly on the Irrigation Engineering.

7. DURATION

The course will be conducted tentatively from February 1986 for thirty-three (33) days.

8. LANGUAGE

The course will be conducted in English.

9. LOCATION & FACILITIES AVAILABLE

- A. The course will be held at the CGSC training centre, Directorate General of Water Resources Development, Ministry of Public Works, located in Bekasi, West Java, Approximately 20 Km South-East of Jakarta Metropolitan.
- B. The centre is having an area of 60,000 sqm, including offices, laboratories, computer centre, dormitory equipped with 60 beds, library, heavy equipment workshop, repair shop, etc.
- C. Heavy equipment, audio visual, micro-filming processors, laboratories for soil mechanics, asphalt, concrete and indoor-outdoor, hydraulics are also available in the centre.

10. QUALIFICATION OF PARTICIPANTS

Participants from each country should :

- A. be nominated by their governments in accordance with the procedure of the Government of Indonesia,
- B. be university graduates or equivalent and actively engaged in the field of Irrigation Engineering preferably with experiences of more than five (5) years,
- C. be less than forty-five (45) years of age,
- D. have an English proficiency, and
- E. be in good health, both physically and mentally, to participate in the course.

11. THE NUMBER OF PARTICIPATING COUNTRIES

A. Indonesian Side

Twenty (20) participants including five (5) Indonesians, because of the training proficiency.

B. Japanese Side

Fifteen (15) participants including five (5) Indonesians, because of the budgetary reason.

12. JAPANESE EXPERTS

The Government of Japan will consider to make available the services of short-term experts, at most two (2) experts, to assist the Indonesian teaching staff concerned in the implementation of the Programme upon formal request from the Government of Indonesia.

13. ACCEPTANCE OF COUNTERPARTS

The Government of Japan is ready to accept two (2) counterparts in order to organize and familiarize the management of TCDC before the commencement of the Programme.

14. ORGANIZATION OF THE COURSE

The course is jointly conducted by :
Directorate General of Water Resources Development, Ministry of Public Works, the Government of Indonesia, under the Technical Cooperation among Developing Countries Programme,
and the Japan International Cooperation Agency (JICA), the Government of Japan, under the Third Country Training Programme.

15. ROLES OF BOTH GOVERNMENTS

Government of Indonesia

- a. Provision with training facilities and equipment
- b. Formulation of curriculum
- c. Assignment of lectures, instructors and a coordinator
- d. Preparation for textbooks and other training aids
- e. Drafting and distribution of Course Information
- f. Screening of application and notification of the results
- g. Arrangement for overseas travel and accommodations of participants
- h. Operation and administration of the course
- i. Submission of statement of expenditures and course report

Government of Japan

- a. Advising with regard to b.c.e. f.h. in the left column
- b. Dispatch of expert(s) for advising, guidance and lecturing.
- c. Preparation for textbooks and other training aids which are not available in the host country
- d. Payment of invitation expenses for foreign participants (i.e. international economy-class flight fare, accommodation, per-diem and medical insurance premium)
- e. Payment of operation expenses (i.e. honoraria, transportation and secretarial services, material procurement)

APPENDIX 1
TENTATIVE TRAINING PROGRAMME

NO.	SUBJECT	CONTENT	TIME DELIVERY	REMARKS
1	Irrigation Planning	General, Investigation, Planning and Introduction of Irrigation Condition in Indonesia	3 days	Indonesian Lecturer
2	Remote sensing Technology	General, Reading images, Thematic maps production and Application of Thematic maps	2 "	---
3	Soil Mechanics, Fundation and Geology	Soil Mechanics, Laboratory Observation, Geophysical Prospecting and Fundation Works	2 "	Japanese Short-Term Expert and Indonesian Lecturer
4	Concrete Engineering	Cement, Agregates, Mix Proportion, Rainforced, Concrete, Laboratory Observation, Setting and Curing	2 "	JICA Expert and Indonesian Lecturer
5	Hydraulic Structure	Main topics on Design and Construction of Dam, Head Works and Canal, Revetment Works and Hydraulic experiment Observation.	3 "	Short-Term Expert (Dam) and Indonesian Lecturer
6	Construction Management	Temporary works, Equipment Plant management, Form, Support, Scheduling, Safety, Quality and Dimension Control.	3 "	Short-Term Expert and Indonesian Lecturer
7	Project Management	Formulating-policies, steps to staffing, motivating, controlling, evaluating and decision making	1 "	Indonesian Lecturer
8	Operation and Maintenance	Facility and Water Management	2 "	---
9	Observation tour	-	5 "	---
10	Seminar	Country report discussion on Irrigation conditions in each country	2 "	---
	10 Subject		Net 25"	

APPENDIX II TENTATIVE TRAINING SCHEDULE

M o n.	T u e.	W e d.	T h u.	F r i.	S a t.	S u n.
February 24	25	26	27	28	March 1	2
Opening Ceremony	Introduction to Gov. Policy on WRD Communication	Irrigation Planning	Remotesensing - Technology	Irrigation Planning	Remotesensing - Technology	
Orientation of the CGSC						
3	4	5	6	7	8	9
Seminar	Irrigation Planning	Soil Mechanics	Hydraulic Structure	Concrete Engineering	Hydraulic Structure	
		Laboratory Observation		Laboratory Observation	Laboratory Observation	
10	11	12	13	14	15	16
Concrete Engineering Laboratory Observation	Fundation and Geology	Holiday	Construction Management	Hydraulic Structure	Construction Management	
17	18	19	20	21	22	23
Construction Management	Observation Tour	do	do	do	do	
24	25	26	27	28		
Seminar	Operation and Maintenance	Project Management	Operation and Maintenance	Evaluation Closing Ceremony		

SUGGESTED PARTICIPATING COUNTRIES

<u>Government of Indonesia</u>		<u>Government of Japan</u>	
1. Philippines	(1)	1. Philippines	
2. Malaysia	(2)	2. Malaysia	
3. Thailand	(2)	3. Thailand	
4. Brunei	(1)	4. Brunei	
5. Burma	(1)	5. Burma	
6. Bangladesh	(1)	6. Bangladesh	
7. Sri Lanka	(1)	7. Sri Lanka	
8. Pakistan	(1)	8. Pakistan	
9. India	(1)	9. India	
10. Tanzania	(1)	10. Tanzania	
11. Egypt	(1)	11. Egypt	
12. Nigeria	(1)	12. Nigeria	
13. Sudan	(1)	13. Sudan	
14. Indonesia	(5)	14. Indonesia	(5)
<hr/>		<hr/>	
TOTAL	(20)	TOTAL	(15)

N.B. The number in the parenthesis means the number of the suggested participant(s).

A SCHEDULE OF THE PREPARATION FOR
COMMENCEMENT OF THE FIRST INTERNATIONAL COURSE

Month	Indonesian Side	Japanese Side
June 1985	Signing of R/D	
August 1985	Submission of application form for the experts and counterparts	
August 1985	Distribution of Final Information to the participating countries	Recruitment of experts
October 1985	Submission of bill of estimate of expenses to JICA Jakarta Office	Acceptance of counterparts
October 1985	Acceptance of applications	
February 1986	Conduct of the course	Dispatch of experts
March 1986	Submission of statement expenditures	
March 1986	Submission of course report	

REQUESTED LIST OF EQUIPMENT OF JAPAN

No.	DESCRIPTION	QUANTITY
<u>I. TEACHING EQUIPMENT/CLASS ROOM EQUIPMENT</u>		
1.	Overhead Projector	2
2.	Multiple Slide Projector	1
3.	Wireless Tape & Speaker	1
4.	Close Up Camera / Tele Lens	1
5.	Sound system (Tape, Speaker, Amp)	1
<u>II. REPRODUCTION EQUIPMENT/OFFICE EQUIPMENT</u>		
1.	Binding Machine	1
2.	Paper Cutter	1
3.	Paper Slashing Machine	1

第三国研修実施協議調査団報告書

— インドネシア・灌漑排水 —

昭和60年9月

第1章 チームの構成、調査日程

1. 団員構成

団員氏名及び業務

- 杉山亭造：国際協力事業団名古屋国際研修センター所長（団長）
藤田日出男：外務省経済協力局技術協力課（協力企画）
安田昭彦：農林水産省構造改善局計画部事業計画課長補佐（研修計画）
杉本充郎：国際協力事業団研修事業部国際研修センター業務室（業務調整）

2. 調査日程及び訪問先

年月日（曜日）	行程・訪問先等
1985.9.1（日）	東京（13:00） <u>JL 719</u> シンガポール <u>OX 711</u> ジャカルタ（21:20） 22:30～23:00 プレジデントホテル インドネシア灌漑排水施工技術センター（CGSC）石坂 リーダー、大久保調整員との打合せ
1985.9.2（月）	9:00 JICA ジャカルタ事務所打合せ 9:30 日本大使館表敬 11:00～13:20 ASEAN 国内事務所表敬・協議（№1） 14:00～20:30 ジャカルタ事務所（R/D案作成）
1985.9.3（火）	藤田団員帰国 8:40～9:40 公共事業省水資源総局灌漑第一局表敬（№2） 10:00～13:20 ASEAN 国内事務局との協議（№3）
1985.9.4（水）	9:00～12:00 CGSC 表敬、研修内容打合せ（№4） 13:00～14:40 CGSC 視察、研修日程作成
1985.9.5（木）	14:30～18:30 ジャカルタ事務所にて研修経費打合せ、R/D案詳細打 合せ及びドラフト作成
1985.9.6（金）	9:40～10:00 公共事業省水資源総局灌漑第一局長表敬（№5） 11:00～11:30 大統領府技術協力調整委員会にてR/D署名（№6） 大使館へ報告 ジャカルタ（19:05） <u>JL 722</u> クアラ・ランパール
1985.9.7（土）	<u>JL 722</u> 東京（06:25）

3. 主な面会者

日本側関係者

岩谷 滋 雄	在インドネシア日本国大使館一等書記官（経済班総括）
宇塚 公 一	在インドネシア日本国大使館一等書記官（公共事業省担当）
山村 寛	国際協力事業団ジャカルタ事務所長
佐々木 幸 男	国際協力事業団ジャカルタ事務所員
坂本 貞	派遣専門家（公共事業省水資源総局所属）
飛田 義 裕	派遣専門家（公共事業省水資源総局所属）
石坂 仁 兵	灌漑排水施工技術センタープロジェクト専門家（リーダー）
大久保 雅 彦	灌漑排水施工技術センタープロジェクト専門家（調整員）

アセアン事務局関係者

NAME	TITLE	NAME OF ORGANIZATION
Mr. Susanto Ismodirdjo	Acting Director of Social & Cultural Affairs Bureau, ASEAN - National Secretariat	
Mr. Husen Adiwisastro	Chief of TCDC Section, Secretariat Cabinet	
Mr. Muslim Sya'roni	Staff of TCDC Section,	"
Mr. Bas Soetarto	Staff of TCDC Section,	"
Mr. Abdullah Lamat	Head, Section for Development, Bureau for Development & Analysis - ASEAN National Secretariat	
Mr. Dalton Sembiring	Staff,	"
Mr. Oddy Yusmawadi	Staff,	"
Mr. Husen Adiwisastro	Chief of TCDC Section, Secretariat Cabinet	
Mr. Bas Soetarto	Staff of TCDC Section, Secretariat Cabinet	
Mr. Abdullah Lamat	Head, Section for Development, Bureau for Development & Analysis - ASEAN National Secretariat	
Mr. Dalton Sembiring	Staff, Section for Development, Bureau for Development & Analysis - ASEAN National Secretariat	
Mr. Endang Pipin Tachyan MSC	Chief, Subdivision of Planning, Center for Training & Education, Ministry of Public Works	

Mr. Azis Bocking Chief, Subdivision of F.A.A. Directorate of Planning & Programming, P.G.W.R.D., Ministry of Public Works

水資源総局関係者

NAME	TITLE	NAME OF ORGANIZATION
Mr. Ir. Amasmuda Daulay	Subdirector of Construction in West Region,	Directorate of Irrigation I, D.G.W.R.D., Ministry of Public Works
Mr. Drs. Naswir Baharudin Staff,		"
Mr. Soewasono	Director	Directorate of Irrigation (1) Directorate General of Water Resources Development

灌漑排水センター関係者

NAME	TITLE	NAME OF ORGANIZATION
Mr. A. Hafied A, Gony BIE. MSc.	Project Manager, CGSC	
Mr. Drs. Kamran Erang	Executing Chief of Curriculum & Sillabus	

大統領府関係者

NAME	TITLE	NAME OF ORGANIZATION
Mr. Moh Widodo Condowardojo Gondowardojo SH.	Head, Bureau for Technical Cooperation Secretariat Cabinet	
Mr. Moh Acherul A	Director, Bureau for Development & Analysis, ASEAN National Indonesia	
Mr. Husen Adiwisastra	Chief of TCDC Section, Secretariat Cabinet	
Mr. Bas Soetarto	Directorate General of External Economic Relations, Ministry of Foreign Relations	

Mr. A. Hafied A Gany	Project Manager, CGSC
Mr. Kamran Erang	Executing Chief of Curriculum & Sillabus, CGSC
Mr. Djoko Soejono	Director, Bureau of Socio-Cultural Activities, ASEAN Secretariat
Mr. Azis Bocking	Chief, Subdivision of F.A.A. Directorate of Planning & Programming, P.G.W.R.D., Ministry of Public Works

第2章 調査目的及び派遣経緯

1. 調査目的

- (1) 第三国研修計画としてインドネシア側から要望のあった灌漑排水研修コースを、アセアン太平洋人造り協力に基づく緊急行動計画の一環として実施することについて、アセアン国内事務局を含むインドネシア側関係当局と協議する。
- (2) 上記研修コースの実施時期、研修内容等詳細につき協議するとともに、研修実施に係わるR/D案を作成する。

2. 派遣経緯

(1) 事前調査団の派遣

昭和58年6月に開催された第7回日・イ技術協力年次協議の結果をふまえ、同年9月インドネシア技術協力調整委員会からわが方に対して第三国研修候補案件として次の5件が提案された。

- ① 中堅農業技術者コース
- ② 灌漑排水訓練コース
- ③ 砂防技術訓練コース
- ④ 家畜衛生コート
- ⑤ 石油・ガス訓練コース

昭和59年3月インドネシアで開催された農業プロジェクトリーダー会議に出席した宮本研修事業部長が、先に国内関係省庁との協議の結果得られた感触をふまえ、上記5件についてインドネシア側関係者と打合せを行った。この結果、プロジェクトの進捗状況、施設の状態及びインドネシア側の準備体制等を総合的に判断したところ、昭和59年度の有力案件として「灌漑排水コース」及び「家畜衛生コース」の2コースが浮かび上がってきたが、結局「家畜衛生コース」のみが59年度に実施されることになった。「灌漑排水コース」については、本案件の実施可能性の調査及び60年3月に事前協議のため、国際協力事業団は昭和60年3月、岡部和夫大阪国際研修センター所長（当時）を団長とする3名の事前調査団を、インドネシアへ派遣することとなった。

同調査団は、灌漑排水技術コースの実施について、インドネシア公共事業省水資源総局長及び灌漑局長等と研修内容、研修形態および実施体制等のフレームワークにつき意見聴取・交換を行ったところ、インドネシア側に第三国研修を実施するにあたっての十分な熱意が窺え、コース運営体制も整っていることから実施が可能であるという判断を下した。

事前調査においてインドネシア側は研修内容について、施工という狭義の分野あるいは灌漑

全般という広義の分野が考えられるとしたが、日本側は集団研修コースの性質上灌漑全般の研修を推した。事実、当初案では施工管理が中心であったが、協議の結果灌漑全般を扱うこととし、タイトル“ Irrigation Engineering ”とした。さらに、研修内容が参加者の興味をひくためにリモートセンシング等の科目を組入れたいとの意向が示され、日本側も了承した。

定員についてインドネシア側は宿舍の有効利用の観点から、20名（インドネシア参加者5名を含む）を強く主張した。

割当国についても、インドネシア側は、事前調査の段階ではアジア9カ国の他アフリカ4カ国（エジプト、タンザニア、ナイジェリア、スーダン）を含める案を出していたが、日本側は、第三国研修の趣旨から近隣諸国が割当られるべきとの立場及び予算の制約から中近東、アフリカ地域からは1～2カ国とすべきであるとの意見を表明した。

インドネシア側原案には、割当国にベトナムがはいっていたが、わが国として代替国としてブルネイを提示し、インドネシア側の了承を取付けた。

研修プログラムについては事前調査により各項目について原則的に了解に達したが、第1回コースについては、セミナーを組込むこととなったため、研修期間を当初案の30日から33日に変更した。

本研修コース実施に際してのインドネシア側の費用分担については、技術協力調整委員会として、13,000 USドルを充てるべくすでに確保済みであるとのことであった。

(2) アセアン・太平洋人造り協力について

昭和59年7月、ジャカルタで開催されたアセアン拡大外相会議の際、アセアン太平洋協力のテーマとして、まず、「人造り」を探り上げることとなり、60年1月ジャカルタで具体策について、高級事務レベル会合が開催された。同会合では、緊急行動計画と中・長期行動計画に分け、協力の実施・優先分野を盛り込んだ政策方針ペーパーが策定された。

このペーパーでは、太平洋人造り協力は新たな試みであり、この協力の実施に必要な財政・技術協力は、従来の二国間または地域協力を補完補足するもので、先進国および開発途上国間の相互利益を実現する協力を含むものであることがうたわれた。

6月25・26日、クアラ・ランブールで開催された第2回高級事務レベル会合において、各国より提案されたプロジェクトの検討が行われ、緊急行動計画については、資金手当ができており、60～61年中に実施可能な34件のプロジェクトが基本的に実施の合意をみた。

昭和60年7月、クアラ・ランブールで開催されたアセアン拡大外相会議において、緊急行動計画（32件）を決定したが、灌漑排水技術の研修はインドネシアにより本プロジェクトの一つとして提唱され、わが国は協力の意向を表明した。

従来、公共事業省等の希望でアフリカ・南西アジア他から研修員を招致することになっていた点について、わが方としては灌漑排水技術訓練コースを緊急行動計画として実施する場合に

は、ASEAN太平洋協力計画の枠組上、これら諸国を割当の対象から除外せざるを得ず、さらにR / D前文に、本件はASEAN太平洋人造り協力の枠組で実施されるものとの趣旨を明記し、同協力を緊急行動計画の一環として行うことを明らかにすることが好ましいとの立場であった。この点で、公共事業等インドネシア側の上承が得られない場合、日本側としては、昭和60年度内に実施するために本コースを緊急行動計画のリストから削除して、インドネシアとの間の二国間技術協力の枠組で行うことを考えていた。

第3章 調査・協議結果

1. アセアン太平洋協力計画との関係

本調査団は、9月2日(月)午前、アセアンインドネシア国内事務局(インドネシア外務省の一部局)を訪問し、同局SUSANTO ISMODIROJO社会文化局長代行及びインドネシア政府大統領府技術協力調整委員会HUSEN ADIWISASTRA第三国研修担当課長等、インドネシア側政府関係者と本件灌漑排水技術コースをアセアン太平洋協力計画の一環として実施すること及び研修コース概要につき、次のとおり意見交換及び協議を行った。

冒頭、調査団が今回の調査目的を説明するとともに、次のとおり発言した。

- (1) 本研修コースは、可能であれば早急にR/Dを署名した上昭和61年3月末迄に実施したい。
- (2) 日本側としては、本コースをアセアン太平洋協力計画の緊急行動計画の一環として実施すべく、次のとおりわが方の考えを述べた。
 - ① 対象国をアセアン・太平洋地域諸国とし、JICA第三国研修計画の枠内で実施する。
 - ② アセアン中央事務局が本計画に関与する必要があるため、同事務局を通じてG.I.送付及び要請書受領等の手続を行う。
 - ③ R/Dには、アセアン中央事務局は署名しない(インドネシア以外の国で行うJICAの第三国研修による緊急行動計画の場合、アセアン中央事務局によるR/D署名が困難なため)。
 - ④ もしインドネシア側が研修対象国としてアフリカ諸国を含めることを強く希望する場合には、別途サイドレターを作成し、アセアン太平洋協力計画とは別枠で受入える方法も考えられる。

これに対して、インドネシア側の回答は次のとおり。

- (1) 昭和60年度の本コースを、太平洋協力計画の一環として実施すること及び実施時期を昭和61年度2月とするとの日本側の提案に同意する。
- (2) 但し本件コースがクアラ・ランブールで提案された際、インドネシア側としては、第三国研修コース(TCDD案件)及びアセアン太平洋協力計画コースの2コースが、各々別個に実施されるものと解釈していた。
- (3) インドネシア側としては、何れの場合も必要な予算手当は可能である(但し予算の支出科目は異なる)。

日本側の予算措置上の問題につき照会があり、調査団より日本側としてはいずれの方式で実施されても予算はJICA予算から手当する旨述べた。

また、調査団は、太平洋協力計画の一環として実施する場合の大きな問題点は、アセアン中央事務局が作成中のガイドラインの完成時期とR/D署名のタイムリミットの調整であり、太平洋協力計画の一環として実施し、かつ、ガイドラインの作成が遅れる場合には、R/Dの署名を見

切り発車しアセアン中央事務局に対して、事後承認を求める方法も考えられる旨述べた。

さらに、ガイドラインの作成がいつ完了する見通しか、また、もし9月末迄に作成が困難な場合、昭和61年2月実施予定の本コースのR/Dの署名に関する先方の意向につき質した。

これに対して、インドネシア側の発言概要は次のとおりであった。

(1) 現在ガイドライン策定について協議中であり、いつ完了するか明らかでない。9月末に、アセアン中央事務局連絡会議が開催され、検討する予定であるが詳細のガイドラインの作成は昭和61年7月頃になるかもしれない。

(2) アセアン太平洋協力計画は、インドネシア側としては1年間のみと想定しているが、次年度（インドネシアの会計年度も4月開始）以降については、対象国にアフリカ諸国を含めた上、通常の第三国研修として継続的に実施したい。

従って、インドネシア側からは概略以下の提案がなされた。

(1) アセアン太平洋協力緊急行動計画は、1年限りと想定されるので、昭和61年度以降も本研修コースの実施を可能にするため、R/Dは通常の第三国研修と同一のものとする。

(2) 但し、本年度コースについては、アセアン太平洋協力計画の一環として実施することを明記したサイドレターを作成する。応募手続は、アセアン事務局を通すこととする。

また、日本側の提起した問題点については、次のとおり先方より発言があった。

(1) ガイドライン作成前であっても、R/D及びサイドレターの署名は可能であると考えている。

(2) アセアン中央事務局を通じて応募手続を行うことも問題ではない。

(3) R/Dの署名者は、従来の第三国研修と同様、日本・インドネシア両国実務責任者の2人としたい。

(4) 本件については、公共事業省とも協議したい。

(5) サイドレターの署名者は、アセアン中央事務局と協議の上、決定したい。その文案は、日本側に任せたい。

(6) R/D案に添付される覚書(MINUTES OF DISCUSSIONS)のインドネシア側の署名は、技術協力調整委員会WIDODO技術協力局長が行うこととし、調印式には、立会人として、アセアン中央事務局担当者の参加を求めたい。

2. 討議議事録について

日本・インドネシア双方協議の結果、以下のとおりの同意をみた。

(1) 割当国について

インド等の南西アジア諸国及びタンザニア等のアフリカ諸国を対象外とする。

対象国はインドネシア以外のアセアン5カ国とパプア・ニューギニア、フィジー、ソロモン諸島、トンガ、トゥバル、キリバス、ミクロネシア、西サモア、パラオ、ナウル及びヴァヌアツ

の南太平洋地域の11カ国とする。

(2) 定員について

アセアン太平洋地域の諸国から10名及びインドネシアから5名以内の参加者とする。候補者を2名以上指名したい場合、優先順位を付して推せんすることができる。

(3) カリキュラムについて

科 目	研 修 内 容	期 間	備 考
1 灌 漑 計 画	インドネシアにおける灌漑調査・計画及び灌漑の一般紹介	3日	インドネシア人講師
2 リモートセンシング技術	リモートセンシング技術一般、画像解析、主題図作成、主題図応用	2日	〃
3 土質力学、基礎及び土資地質学	土質力学、実験室見学、土質調査・試験	2日	日本人短期専門家及びインドネシア人講師
4 コンクリート工学	セメント、骨材、コンクリート配合、鉄筋コンクリート、セメント凝結及び養成	2日	日本人長期専門家及びインドネシア人講師
5 水 理 構 造	ダム設計及び施工、頭首工、水路及び擁壁施工、水理実験見学	3日	日本人短期専門家及びインドネシア人講師
6 土 木 施 工 管 理	資材及び施設管理、工程管理、安全管理、品質管理、規格管理	3日	日本人短期専門家及びインドネシア人講師
7 プロジェクト管理	灌漑計画策定、職員人事配置、職員管理・勤務評価及び	1日	インドネシア人講師
8 保 守 管 理	施設管理及び水管理	2日	〃
9 見 学		5日	〃
10 セ ミ ナ ー	研修員が自国の灌漑の現状について発表し、討論する。	2日	〃
11 研 修 旅 行	4泊5日 ジョクジャカルタ及びバリ島に点在する灌漑施設の見学を行う。		

(4) カウンターパート受入について

事前調査団に対し、インドネシア側は、研修計画・運営について2名の研修員の受入れ希望を表明していたが、1名の受入れの用意があることを述べ、受入希望期間の確認を求めたところ、CGSC研修課長の派遣を決定し、既に要請書を提出してあり、CGSC側の第三国研修実施準備の関係から11月上旬から約3週間の受入れを希望するとのことであった。研修内容としては、第三国研修の実施・運営の方法・管理及び日本の灌漑技術について現場を視察する

というものである。

(昭和60年11月12日～昭和60年11月30日まで、Mr. Kamau Mochamad Ma'mun CGSC研修課長を受入れた。)

(5) 機材供与について

事前調査の時点でインドネシア側から、本研修用の機材として日本側に供与を要請されたものは以下のものである。

- 1 オーバーヘッド・プロジェクター 2
- 2 マルティプル・スライドプロジェクター 1
- 3 ワイヤステープ及びスピーカー 1
- 4 クローズアップカメラ及びテレレンズ 各1
- 5 サウンドシステム(テープ、スピーカー、アンプ) 各1
- 6 製本機(バイディングマシン) 1
- 7 押 切 り 1

当方で検討した結果オーバーヘッドプロジェクター、マルティプルスライドプロジェクター、ワイヤステープ及びスピーカー、クローズアップカメラ及びテレレンズ、サウンドシステムを供与することとした。

ジャカルタ事務所との協議では、供与する機材はすべてインドネシアで調達可能であり、できればすべて現地で購入したい意向であったが、オーバーヘッドプロジェクター、マルティプルスライドプロジェクター、ワイヤステープ及びスピーカーは専門家が携行することとなった。

(6) 短期専門家派遣について

インドネシア側からは3月の事前調査の時点では、下記科目を日本側短期派遣専門家による講義としていた。

- 1 品 質 管 理
- 2 安 全 管 理
- 3 パ イ ル
- 4 排 水
- 5 プ ラ ン ト 管 理

これに対し、日本側は、本コースには2名までの短期専門家を派遣することを提案し、了解された。

灌漑計画分野の専門家は、プロジェクト専門家に講義をしてもらうことを坂本リーダーに非公式に打診し内諾を得た。水理構造及び構造物管理は1名の専門家が担当する旨の提案に、インドネシア側もこれを了承している。

(7) ジェネラル・インフォメーションについて(コース・インフォメーション)

調査団は、R/D署名から研修実施までの期間が短いため、予め当方でGIの案を用意して協議に臨んだが、CGSCとの協議ではインドネシア側はすでに公共事業省水資源総局内部で具体的にコース運営のための作業グループで準備を進めており、GIについても同じ公共事業省が関与している地震工学第三国研修の資料を取寄せ、検討を進めていた。

したがって、調査団はGIの作成を早急に行うように依頼し、あわせて要請書の書式と配布方法についてASEAN事務局を通ずることになる事になった経緯を説明し、了解をえた。

(8) 研修機関について

公共事業省水資源総局灌漑第一局灌漑排水施工技術センター(CGSC)研修課が実施にあたる。

イ 研修場所

CGSC講義室、試験棟。ただしリモートセンシング技術については、公共事業省情報統計センターにおいて研修を行う。

ロ 宿舎

CGSC寮(20室、1室3名収容)

CGSC内には食堂も設置されている。

3. 公共事業省との打合せ結果

(1) 灌漑排水施工技術センター(CGSC)

9月4日午前、本研修コースの実施予定機関である公共事業省灌漑排水施工技術センターを訪問し、同センターA、HAFIED所長他と研修日程表カウンターパートの受入れ、短期派遣専門家及び携行機材等の具体的実施計画について協議するとともに、研修及び研修員宿泊施設等を視察した。以下、その協議結果である。

まず、調査団が調査目的及び9月2日並に3日のアセアン国内事務局及び技術協力調整委員会との協議結果概要を説明するとともに、M/Dを6日締結する予定で、これに基づき昭和61年2月から実施予定される本研修コースの円滑かつ効果的な実施について協力を要請した。

これに対して、同所長は次のとおり発言した。

- ① 本研修計画は、1年前から検討されていたが、その後アセアン太平洋協力計画の一環として実施されることが提案され、そのガイドライン等が明確でないため、コースの具体的検討を進めることができなかった。

このため、本センターとしても昭和60年度実施をあきらめ、昭和61年6月～7月頃に実施延期されるものと思っていた。

- ② 本年度内に実施決定した結果、準備に必要な時間的要素及びアセアン太平洋協力計画の枠

内でどのように進めるかが今後の検討課題である。

- ③ 定員については、当センターの研修員宿舎収容能力が60名（3名収容可能な室が20室ある）分あるため、効率的な運営のため、当初15名を要望した。今回の研修員は10名であり、またプライバシーの観点からも1名1室としたい。
- ④ 当センターで第三国研修を実施するのは、初めての経験であり少々心配であるが全力をつくして行ないたい。

これに対して調査団より研修員受入実施上の事前準備、実施上の諸問題及び福利厚生活動等について指導助言を行った。

この他、研修カリキュラム、カウンターパートの受入、短期専門家派遣及び携行機材等について協議し、双方了解に達した。

(2) 公共事業省水資源総局灌漑第一局

9月6日午前、調査団は、公共事業省水資源総局灌漑第一局にSOEWASONO局長を訪門し、調査団の目的及びアセアン国内委員会及び技術協力の調整委員会との協議結果概要を説明し、本研修コースの円滑かつ効果的实施について、理解と協力を要請した。

これに対し同局長は、本年度実施上時間的な点で少々心配であるが、本年度実施について了解するとともに、灌漑第一局としても本研修を成功裡に実施するため、最大の努力をすると発言した。

4. 署 名 式

9月6日（金）11時、新築された近代的な技術協力調整委員会の建物において、灌漑排水技術第三国研修コースに係るMINUTES OF DISCUSSIONSの調印式が、厳かに開催された。

インドネシア側は、技術協力の調整委員会WIDODO技術協力局長他アセアン国内委員会MOH ACHERUL開発分析局長、外務省対外経済関係総局BAS職員、公共事業省水資源総局Mr Azis Boeking 渉外課長及びオブザーバーとしてアセアン中央事務局DJOKO SOEJONO 社会文化局長が出席した。

一方、日本側は、実施協議調査団杉山団長以下2名の調査団員の他、在インドネシア日本国大使館宇塚二等書記官、JICAジャカルタ事務所佐々木所員及び、灌漑排水施工技術センター派遣日本人専門家の石坂チームリーダー等が出席した。

始めに、インドネシア側を代表して、WIDODO技術協力局長が、次のとおり発言した。

「本研修コースはアセアン—太平洋協力計画の一環として、日・イ両国政府の協力に基づいて実施されるものである。本コースは、他の開発途上国の開発促進のためのパイロット的役割を担うものであり、その研修施設及び技術等が効果的に活用されることを要望したい。調査団及び日

・イ双方の各関係者の努力に感謝いたしたい。」

これに対し、杉山団長は次のとおり発言した。

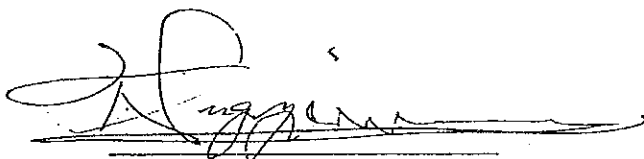
「本日、本研修コースのM / Dに署名できることは喜ばしい。サイドレターを作成してR / Dが署名され、コースの最終的实施が早急に決定されることを要望する。イ側政府関係者の協力を謝すとともに、本コースの成功裡に実施されることを期待する。」

引続き、M / Dの調印を無事終了した。

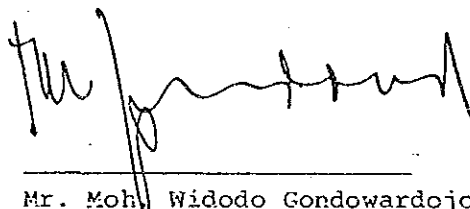
MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF INDONESIA
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

1. The Japanese Consultation Team organized by JICA and headed by Mr. Teizo Sugiyama, Director of Nagoya International Training Centre, of JICA visited Indonesia from the first to the sixth of September 1985 for the purpose of discussing the Training Course in the field of Irrigation Engineering under the Third Country Training Programme of JICA.
2. During its stay in Indonesia, the team exchanged views on implementation of the Training Course with the authorities concerned of the Government of Indonesia and a draft of Record of Discussions was drawn up by both sides as attached hereto.
3. Both sides were of the view that the first Training Course to be implemented in the Japanese fiscal year of 1985 should be one of the Immediate Action Programmes under the ASEAN-Pacific HRD Programme.
4. Both sides agreed that the implementation of the training course in fiscal year of 1985 in accordance with the framework mentioned in 3 above would be confirmed by a supplementary document to be added to the Record of Discussions.

Jakarta, September 6, 1985



Mr. Teizo Sugiyama
Head of The Japanese
Consultation Team
Japan International
Cooperation Agency.



Mr. Moh. Widodo Gondowardojo SH.
Head, Bureau for
Technical Cooperation,
Secretariat Cabinet.

RECORD OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE CONSULTATION TEAM
AND THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF INDONESIA
ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Consultation Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by _____ visited Indonesia from _____ to _____ for the purpose of formulating the training course in the field of irrigation engineering under the Third Country Training Programme of JICA.

During its stay in Indonesia, the Team had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Indonesia with respect to the framework of the above mentioned training course and the desirable measures to be taken by both Governments to ensure its successful operation.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of Indonesia will cooperate with each other in organizing the training course in the field of irrigation engineering at Construction Guidance Service Center (hereinafter referred to as "the Course") under the Third Country Training Programme of JICA.

The Government of Indonesia will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese fiscal year of 1985 (April 1, 1985 - March 31, 1986) onward, subject to an annual agreement between both Governments.

The Course in the Japanese fiscal year of 1985 will be operated in accordance with the following;

1. TITLE

The Course will be entitled "International Training Course in Irrigation Engineering".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide the participants from developing countries with an opportunity of refreshing and improving relevant techniques and knowledge in the field of irrigation engineering.

3. DURATION

The Course will be held from February 24 to March 28, 1986.

4. CURRICULUM

The tentative curriculum of the Course is attached as ANNEX I.

5. INVITED COUNTRIES

The Government of the following countries will be invited to apply for the Course by nominating applicant (s):

the Philippines, Malaysia, Thailand, Brunei, Singapore, Papua New Guinea, Fiji, Solomon Islands, Tonga, Tuvalu, Kalibati, Niue, Western Samoa, Cooks Island, Nauru and Vanuatu.

6. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed ten (10) in total. And the number of participants from Indonesia shall not exceed five (5).

7. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course, are :

- 7-1 To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned in 9-1 below.
- 7-2 To be university graduates or to have the equivalent academic background,
- 7-3 To be engaged in irrigation engineering.
- 7-4 To have the practical experience of, preferably, more than five (5) years in the field.
- 7-5 To be under forty five (45) years of age in principle.
- 7-6 To have a good command of spoken and written English and
- 7-7 To be in good health to complete the Course.

8. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be conducted at Construction Guidance Service Center in Indonesia (hereinafter referred to as "C.G.S.C").

9. PROCEDURE OF APPLICATION

- 9-1 The Government applying for the Course shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of Indonesia through its diplomatic channels not later than December 4, 1985.
- 9-2 The Government of Indonesia will inform the applying governments whether or not the applicant(s) is/are accepted for the Course not later than January 24, 1986.

10. UNDERTAKING OF BOTH GOVERNMENTS

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country :

10-1 The Government of Indonesia

10-1-1 Cabinet Secretariat

- (1) To forward the General Information Brochures (G.I.) of the Course to the Governments of the invited countries through its diplomatic channels.
- (2) To receive application forms and forward them to Directorate General of Water Resources Development, Ministry of Public Works (hereinafter referred to as "the Directorate General"), and
- (3) To notify selection of participants to the respective Governments through its diplomatic channels and the Embassy of Japan in Indonesia.

10-1-2 The Directorate General

- (1) To formulate the curriculum based on ANNEX I,
- (2) To draft and print the G.I.
- (3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors

for the Course

- (4) To provide its training facilities and equipment for the Course
- (5) To select participants for the Course.
- (6) To arrange accommodations for participants,
- (7) To meet and see them off at the airport,
- (8) To arrange a domestic study tour to be included in the Course
- (9) To take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course excluding the expenses financed by the Government of Japan,
- (10) To issue certificates to the successful participants at the end of the Course
- (11) To submit a course report and a statement of expenditures to the JICA Jakarta Office (hereinafter referred to as "the JICA office") and
- (12) To coordinate any matter related to the Course.

10-2 The Government of Japan

- (1) To dispatch, following the regular procedures of its technical cooperation scheme, short-term experts who will give advice to the Directorate General and deliver lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I.
- (2) To bear the following expenses for the Course through JICA,
 - a. Such expenses relevant to overseas participants as international economy-class flight fare, living allowance and medical insurance premiums,
 - b. Such expenses relevant to the Directorate General as honoraria for external lecturers, arrangement of a study tour, teaching aids, expendable supplies, and copies and reprints.

11. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

The remittance and expenditure of the funds for the expenses to be borne by JICA will be arranged in accordance with the following procedures.

- 11-1 The Directorate General will open a bank account in Indonesia to accept the fund remitted by JICA and inform the JICA Office of the name of bank, the account code number, and the name of the account holder.
 - 11-2 The Directorate General will submit to the JICA Office a bill of estimate for expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before the opening of the Course.
 - 11-3 JICA will assess the estimated bill and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 11-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimate.
 - 11-4 The Directorate General will submit to the JICA Office a statement of expenditures within thirty (30) days after termination of the Course.
 - 11-5 In case any amount of the fund remitted by JICA remains unspent, the Directorate General will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The fund allocated for the flight fare, living allowance, and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purpose.
 - 11-6 By the request of JICA, the Directorate General will make available for JICA's reference, all the receipts and other documentary evidences necessary to certify the expenditures stated in 11-4 above.
12. This Attached Document and the following Annexs attached hereto shall be deemed to be a part of the Record of Discussions:

ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course

ANNEX II : Schedule of Course Operation

ANNEX III : Tentative List of Expenditure Items.

ANNEX I

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
Feb.23 Sun.	Arrival				
24 Mon.	Opening Ceremony	Indonesia	Orientation (Guidance of CGSC and others)	Indonesia	
25 Tue.	Introduction to Gov. policy on WRD	ditto	Introduction of participants	ditto	
26 Wed.	Irrigation Planning (General Condition of Irrigation in Indonesia)	ditto	Irrigation planning (General Condition of Irrigation in Japan)	Japan (JICA Expert)	
27 Thu.	Remotesensing-Tech- nology (General, Reading image)	ditto	Remotesensing-Tech- nology (Production of Thematic Map)	Indonesia	
28 Fri.	Irrigation Planning (Investigation)	ditto			
Mar. 1 Sat.	Remotesensing Tech- nology (Application of Thematic Maps)	ditto	Remotesensing Tech- nology (Application of Thematic Maps)	Indonesia	Site at R S C
2 Sun.	F r e e				
3 Mon.	Seminar x) (Country Report Discussion on Irrigation)	Indonesia	Seminar (Country report Discussion on Irrigation)	Indonesia	
4 Tue.	Irrigation Planning (Standard)	ditto	Irrigation Planning (Planning)	ditto	
5 Wed.	Soil Mechanics (General)	ditto	Soil Mechanics (Laboratory Obser- vation)	ditto	
6 Thu.	Hydraulic structure (Head Works)	ditto	Hydraulic structure (Canal)	ditto	
7 Fri.	Concrete Engineering (General and Labora- tory Observation)	ditto			
8 Sat.	Hydraulic Structure (Revetment Works)	ditto	Hydraulic Structure (Laboratory Obser- vation)	Indonesia	
9 Sun.	F r e e				

x) Thema of Seminar : Present condition of Irrigation and Problems in Irrigation Development in Here Country

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
10 Mon.	Concrete Engineering (General)	Indonesia	Concrete Engineering (Laboratory Observation)	Indonesia	
11 Tue.	Hydraulic Structure (Design of Dam)	Japan (Short Term Expert)	Hydraulic Structure (Design of Dam)	Japan (Short Term Expert)	
12 Wed.	National Holiday				
13 Thu.	Construction Management (Construction Management of Dam)	Japan (Short Term Expert)	Construction Management (Construction Management of Dam)	Japan (Short Term Expert)	
14 Fri.	Foundation and Geology (Foundation of Dam)	ditto	Foundation and Geology (Foundation of Dam)	ditto	
15 Sat.	Construction Management (Temporary Works)	Indonesia	Construction Management (Form Support, etc.)	Indonesia	
16 Sun.	F r e e				
17 Mon.	Construction Management (Scheduling)	Indonesia	Construction Management (Quality and Dimension Control)	Indonesia	
18 Tue.		ditto		ditto	Jakarta - Yogyakarta
19 Wed.		ditto		ditto	Jogyakarta-Bali
20 Thu.	Observation Tour	ditto		ditto	Bali
21 Fri.		ditto		ditto	Bali
22 Sat.		ditto		ditto	Bali-Jakarta
23 Sun.	F r e e				
24 Mon.	Seminar x) (Panel Discussion on Irrigation)	Indonesia	Seminar (Panel Discussion on Irrigation)	Indonesia	
25 Tue.	Operation and Maintenance (Facility Management)	ditto	Operation and Maintenance (Facility Management)	ditto	

x) Thema of Seminar : Irrigation Application and its Prospect

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
Mar. 26 Wed.	Project Management (Formulating Policies, etc.)	ditto	Project Management (Decision Mking, etc.)	ditto	
27 Thu.	Operation and Maintenance (Water Management)	ditto	Operation and Maintenance (Water Management)	ditto	
28 Fri.	Evaluation Closing Ceremony	ditto			
29 Sat.	Departure				

ANNEX II

SCHEDULE OF COURSE OPERATION

MONTH	INDONESIAN SIDE	JAPANESE SIDE
September	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Preparation of G.I. 3. Submission of Form A-1 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Recruitment of Experts
Late September	<ol style="list-style-type: none"> 1. Distribution of G.I. & Application Form 	
Early December	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening of Bank Account 2. Submission of Bill of Estimate 3. Receipt of Application Forms 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of B-1 Forms
Late January 1986	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notification of the Selection of the Participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expenses
February	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of Course 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Experts
March	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report 	

ANNEX III

TENTATIVE LIST OF EXPENDITURE ITEMS

No.	ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
I.	INVITATION EXPENSES	US\$	US\$
			22,150
	1. Airfare		12,950
		1. Brunei	900
		2. Malaysia	420
		3. Philippines	1,060
		4. Thailand	840
		5. P.N.G.	2,100
		6. Fiji	2,450
		Total	7,770
		$7,770 + \frac{10}{6} = 12,950$	
	2. Living Allowance	9,000	
	@ 30 X 30 days X 10 persons		
	3. Medical Insurance	200	
	@ 20 X 10 persons		


No.	ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
II.	OPERATION EXPENSES	<p style="text-align: right;">US\$</p> <p style="text-align: right;">US\$</p>	<p style="text-align: right;">US\$</p>
			20,950
	1. Honoraria		500
	1) Travel Expenses	@ 150 X 2 persons = 300	
	2) External Lecturer	@ 100 X 2 persons = 200	
	2. Study Tour Expenses		5,150
	1) Transportation	@ 315 X 10 persons = 3,150	
		i) Chartered Bus 90	
		ii) Air fare 200	
		iii) B u s 25	
	2) Accomodation	@ 30 X 4 nights X 10 persons = 1,200	
	3) Per-dime	@ 16 X 5 days X 10 persons = 800	
	3. Equipment		9,300
		1) Overhead Projector 1,500	
		2) Multiple Slide Projector 3,500	
		3) Wireless Tape & Speaker 1,500	
		4) Close Up Camera/Tele Lens 1,500	
		5) Sound System (Tape, Speaker & Amp.) 1,300	
	4. Printing Cost		5,500
		1) English Textbook @ 50 X 2 X 10 persons = 1,000	
		2) Reproduction of Textbook @ 10 X 250 = 2,500	
		3) Course Information 2,000	
	5. Expendable Supplies		500
III.	GRAND TOTAL		43,100

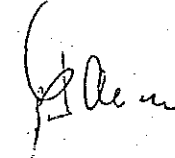
RECORD OF DISCUSSIONS
B E T W E E N
RESIDENT REPRESENTATIVE OF
JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY IN INDONESIA
AND DIRECTORATE GENERAL OF WATER RESOURCES DEVELOPMENT,
MINISTRY OF PUBLIC WORKS ON THE THIRD COUNTRY TRAINING PROGRAMME

The Japanese Consultation Team on the Third Country Training Programme had discussions with the authorities concerned of the Government of Indonesia in September 1985 with respect to the framework of Training Course in the field of Irrigation Engineering under the programme and desirable measures to be taken by authorities concerned of both countries to ensure their successful operation.

Based on the above discussions, the Resident Representative of Japan International Cooperation Agency in Indonesia and Director General of Water Resources Development, Ministry of Public Works of the Republic of Indonesia agreed to recommend their respective Governments the matters referred to in the documents attached hereto.

September 30, 1985.


Hiroyuki Yamamura
Resident Representative
Japan International
Cooperation Agency.


Ir. Y. Soedaryoko
Director General of
Water Resources Development,
Ministry of Public Works,
Republic of Indonesia.

ATTACHED DOCUMENT

The Government of Japan and the Government of Indonesia will cooperate with each other in organizing the training course in the field of irrigation engineering at Construction Guidance Service Center (hereinafter referred to as "the Course") under the Third Country Training Programme of JICA.

The Government of Indonesia will conduct the Course with the support of the technical cooperation scheme of the Government of Japan. The Course will be held once a year from the Japanese fiscal year of 1985 (April 1, 1985 - March 31, 1986) onward, subject to an annual agreement between both Governments.

The Course in the Japanese fiscal year of 1985 will be operated in accordance with the following;

1. TITLE

The Course will be entitled "International Training Course in Irrigation Engineering".

2. PURPOSE

The purpose of the Course is to provide the participants from developing countries with an opportunity of refreshing and improving relevant techniques and knowledge in the field of irrigation engineering.

3. DURATION

The Course will be held from February 24 to March 28, 1986.

4. CURRICULUM

The tentative curriculum of the Course is attached as ANNEX I.

149

6

5. INVITED COUNTRIES

The Government of the following countries will be invited to apply for the Course by nominating applicant (s):
the Philippines, Malaysia, Thailand, Brunei, Singapore, Papua New Guinea, Fiji, Solomon Islands, Tonga, Tuvalu, Kalibati, Niue, Western Samoa, Cooks Island, Nauru and Vanuatu.

6. NUMBER OF PARTICIPANTS

The number of participants from the invited countries shall not exceed ten (10) in total. And the number of participants from Indonesia shall not exceed five (5).

7. QUALIFICATIONS FOR APPLICANTS

Applicants for the Course are :

- 7-1 To be nominated by their respective Governments in accordance with the procedure mentioned in 9-1 below.
- 7-2 To be university graduates or to have the equivalent academic background,
- 7-3 To be engaged in irrigation engineering.
- 7-4 To have the practical experience of, preferably, more than five (5) years in the field.
- 7-5 To be under forty five (45) years of age in principle.
- 7-6 To have a good command of spoken and written English and
- 7-7 To be in good health to complete the Course.

8. FACILITIES AND INSTITUTIONS

The Course will be conducted at Construction Guidance Service Center in Indonesia (hereinafter referred to as "C.G.S.C.").

124

9

9. PROCEDURE OF APPLICATION

9-1 The Government applying for the Course shall forward five (5) copies of the prescribed application form for each nominee to the Government of Indonesia through its diplomatic channels not later than December 4, 1985.

9-2 The Government of Indonesia will inform the applying governments whether or not the applicant (s) is/are accepted for the Course not later than January 24, 1986.

10. UNDERTAKING OF BOTH GOVERNMENTS

In organizing and implementing the Course, both Governments will take the following measures in accordance with the relevant laws and regulations in force in each country :

10-1 The Government of Indonesia

10-1-1 Cabinet Secretariat

(1) To forward the General Information Brochures (G.I.) of the Course to the Governments of the invited countries through its diplomatic channels.

(2) To receive application forms and forward them to Directorate General of Water Resources Development, Ministry of Public Works (hereinafter referred to as "the Directorate General"), and

(3) To notify selection of participants to the respective Governments through its diplomatic channels and the Embassy of Japan in Indonesia.

10-1-2 The Directorate General

(1) To formulate the curriculum based on ANNEX I,

(2) To draft and print the G.I.

(3) To assign an adequate number of its staff as lecturers/instructors

128

6

for the Course

- (4) To provide its training facilities and equipment for the Course
- (5) To select participants for the Course.
- (6) To arrange accommodations for participants,
- (7) To meet and see them off at the airport,
- (8) To arrange a domestic study tour to be included in the Course
- (9) To take budgetary measures to bear the expenses necessary for conducting the Course excluding the expenses financed by the Government of Japan,
- (10) To issue certificates to the successful participants at the end of the Course
- (11) To submit a course report and a statement of expenditures to the JICA Jakarta Office (hereinafter referred to as "the JICA office") and
- (12) To coordinate any matter related to the Course.

10-2 The Government of Japan

- (1) To dispatch, following the regular procedures of its technical cooperation scheme, short-term experts who will give advice to the Directorate General and deliver lectures on such subjects as mentioned in ANNEX I.
- (2) To bear the following expenses for the Course through JICA,
 - a. Such expenses relevant to overseas participants as international economy-class flight fare, living allowance and medical insurance premiums,
 - b. Such expenses relevant to the Directorate General as honoraria for external lecturers, arrangement of a study tour, teaching aids, expendable supplies, and copies and reprints.

124

8

11. PROCEDURE OF REMITTANCE AND EXPENDITURE

The remittance and expenditure of the funds for the expenses to be borne by JICA will be arranged in accordance with the following procedures.

- 11-1 The Directorate General will open a bank account in Indonesia to accept the fund remitted by JICA and inform the JICA Office of the name of bank, the account code number, and the name of the account holder.
 - 11-2 The Directorate General will submit to the JICA Office a bill of estimate for expenses to be borne by JICA not later than sixty (60) days before the opening of the Course.
 - 11-3 JICA will assess the estimated bill and remit the assessed amount of expenses to the account mentioned in 11-1 above within thirty (30) days after the receipt of the bill of estimate.
 - 11-4 The Directorate General will submit to the JICA Office a statement of expenditures within thirty (30) days after termination of the Course.
 - 11-5 In case any amount of the fund remitted by JICA remains unspent, the Directorate General will reimburse the unspent amount to JICA in accordance with the instructions given by JICA. The fund allocated for the flight fare, living allowance, and medical insurance premiums shall not be appropriated for any other purpose.
 - 11-6 By the request of JICA, the Directorate General will make available for JICA's reference, all the receipts and other documentary evidences necessary to certify the expenditures stated in 11-4 above.
12. This Attached Document and the following Annexs attached hereto shall be deemed to be a part of the Record of Discussions:

148

6

- ANNEX I : Tentative Curriculum of the Course
ANNEX II : Schedule of Course Operation
ANNEX III : Tentative List of Expenditure Items.
-

149

9

AND :

TENTATIVE CURRICULUM OF THE COURSE

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
Feb.23 Sun.	Arrival				
24 Mon.	Opening Ceremony	Indonesia	Orientation (Guidance of CGSC and others)	Indonesia	
25 Tue.	Introduction to Gov. policy on WRD	ditto	Introduction of participants	ditto	
26 Wed.	Irrigation Planning (General Condition of Irrigation in Indonesia)	ditto	Irrigation planning (General Condition of Irrigation in Japan)	Japan (JICA Expert)	
27 Thu.	Remotesensing-Tech- nology (General, Reading image)	ditto	Remotesensing-Tech- nology (Production of Thematic Map)	Indonesia	
28 Fri.	Irrigation Planning (Investigation)	ditto			
Mar. 1 Sat.	Remotesensing Tech- nology (Application of Thematic Maps)	ditto	Remotesensing Tech- nology (Application of Thematic Maps)	Indonesia	Site of R S C
2 Sun.	F r e e				
3 Mon.	Seminar x) (Country Report Discussion on Irrigation)	Indonesia	Seminar (Country report Discussion on Irrigation)	Indonesia	
4 Tue.	Irrigation Planning (Standard)	ditto	Irrigation Planning (Planning)	ditto	
5 Wed.	Soil Mechanics (General)	ditto	Soil Mechanics (Laboratory Obser- vation)	ditto	
6 Thu.	Hydraulic structure (Head Works)	ditto	Hydraulic structure (Canal)	ditto	
7 Fri.	Concrete Engineering (General and Labora- tory Observation)	ditto			
8 Sat.	Hydraulic Structure (Revetment Works)	ditto	Hydraulic Structure (Laboratory Obser- vation)	Indonesia	
9 Sun.	F r e e				

x) Theme of Seminar :Present condition of Irrigation and Problems in Irrigation Development in
Home Country

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
10 Mon.	Concrete Engineering (General)	Indonesian	Concrete Engineering (Laboratory Observation)	Indonesian	
11 Tue.	Hydraulic Structure (Design of Dam)	Japan (Short Term Expert)	Hydraulic Structure (Design of Dam)	Japan (Short Term Expert)	
12 Wed.	National Holiday				
13 Thu.	Construction Management (Construction Management of Dam)	Japan (Short Term Expert)	Construction Management (Construction Management of Dam)	Japan (Short Term Expert)	
14 Fri.	Foundation and Geology (Foundation of Dam)	ditto	Foundation and Geology (Foundation of Dam)	ditto	
15 Sat.	Construction Management (Temporary Works)	Indonesian	Construction Management (Form Support, etc.)	Indonesian	
16 Sun.	F r e e				
17 Mon.	Construction Management (Scheduling)	Indonesian	Construction Management (Quality and Dimension Control)	Indonesian	
18 Tue.		ditto		ditto	Jakarta - Yogyakarta
19 Wed.		ditto		ditto	Yogyakarta - Bali
20 Thu.	Observation Tour	ditto		ditto	Bali
21 Fri.		ditto		ditto	Bali
22 Sat.		ditto		ditto	Bali-Jakarta
23 Sun.	F r e e				
24 Mon.	Seminar x) (Panel Discussion on Irrigation)	Indonesian	Seminar (Panel Discussion on Irrigation)	Indonesian	
25 Tue.	Operation and Maintenance (Facility Management)	ditto	Operation and Maintenance (Facility Management)	ditto	

x) Theme of Seminar : Irrigation Application and its Prospect.

Date	Morning	Assigned to	Afternoon	Assigned to	Remarks
Mar. 26 Wed.	Project Management (Formulating Policies, etc.)	ditto	Project Management (Decision Making, etc.)	ditto	
27 Thu.	Operation and Maintenance (Water Management)	ditto	Operation and Maintenance (Water Management)	ditto	
28 Fri.	Evaluation Closing Ceremony	ditto			
29 Sat.	Departure				

SCHEDULE OF COURSE OPERATION

MONTH	INDONESIAN SIDE	JAPANESE SIDE
September	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Preparation of G.I. 3. Submission of Form A-1 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Signing of Record of Discussions 2. Recruitment of Experts
Late September	<ol style="list-style-type: none"> 1. Distribution of G.I. & Application Form 	
Early December	<ol style="list-style-type: none"> 1. Opening of Bank Account 2. Submission of Bill of Estimate 3. Receipt of Application Forms 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of B-1 Forms
Late January 1986	<ol style="list-style-type: none"> 1. Notification of the Selection of the Participants 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Remittance of Expenses
February	<ol style="list-style-type: none"> 1. Implementation of Course 	<ol style="list-style-type: none"> 1. Dispatch of Experts
March	<ol style="list-style-type: none"> 1. Submission of Statement of Expenditures 2. Submission of Course Report 	

TENTATIVE LIST OF EXPENDITURE ITEMS

No.	ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
I.	INVITATION EXPENSES		US\$ 22,150
	1. Airfare		12,950
		1. Brunei 900	
		2. Malaysia 420	
		3. Philippines 1,060	
		4. Thailand 840	
		5. P.N.G. 2,100	
		6. Fiji 2,450	
		<hr/>	
		Total 7,770	
		$7,770 \times \frac{10}{6} = 12,950$	
	2. Living Allowance		9,000
		@ 30 X 30 days X 10 persons	
	3. Medical Insurance		200
		@ 20 X 10 persons	


No.	ITEM OF EXPENSES	BREAKDOWN	AMOUNT
		USS	USS
II.	OPERATION EXPENSES		20,950
	1. Honoraria		500
	1) Travel Expenses	@ 150 X 2 persons = 300	
	2) External Lecturer	@ 100 X 2 persons = 200	
	2. Study Tour Expenses		5,150
	1) Transportation	@ 315 X 10 persons = 3,150	
	i) Chartered Bus	90	
	ii) Air fare	200	
	iii) Bus	25	
	2) Accomodation	@ 30 X 4 nights X 10 persons = 1,200	
	3) Per-dime	@ 16 X 5 days X 10 persons = 800	
	3. Equipment		9,300
	1) Overhead Projector	1,500	
	2) Multiple Slide Projector	3,500	
	3) Wireless Tape & Speaker	1,500	
	4) Close Up Camera/Tele Lens	1,500	
	5) Sound System (Tape, Speaker & Amp.)	1,300	
	4. Printing Cost		3,500
	1) English Textbook	@ 50 X 2 X 10 persons = 1,000	
	2) Reproduction of Textbook	@ 10 X 250 = 2,500	
	3) Course Information	2,000	
	5. Expendable Supplies		500
III.	GRAND TOTAL		43,100

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING

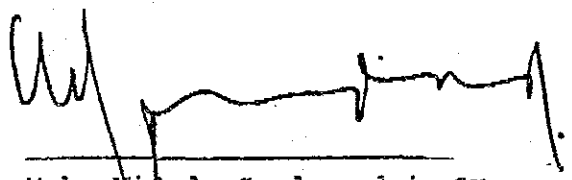
With respect to the Record of Discussions on the Third Country Training Programme of JICA signed on 30 September, 1985 between Resident Representative of Japan International Cooperation Agency and Director General of Water Resources Development, Ministry of Public Works of the Republic of Indonesia, it is understood by both Japanese and Indonesian sides that they will recommend the following for their respective Governments.

The Training Course under the Third Country Training Programme in the Japanese Fiscal Year of 1985 will be implemented as one of the Immediate Action Programmes of the Asean-Pacific HRD Programme.


Jakarta, 2 October 1985.



Hiroshi Yamamura
Resident Representative
Japan International
Cooperation Agency.



Moh. Widodo Gondowardojo SH.
Head, Bureau of
Technical Cooperation,
Secretariat Cabinet,
the Republic of Indonesia.



In Witness

Djoko Soejono
Director, Bureau of
Social and Cultural Affairs,
Asean Secretariat.

灌漑排水技術コースの要請内容

1 コース名：灌漑プロジェクト施工監理

2 背景：インドネシア開発の最も重要な目的の1つが、食糧増産、とりわけ米の自給である。この目的のための有力な施策として、公共事業省は、水資源開発に精力的に取り組んできた。灌漑施設の建設事業が、食糧増産を支援するために、水資源の開発との関連で実施されてきた。これら事業実施を促進するため、外部、特に日本からの技術援助が、灌漑技術の分野において、インドネシアの技術的欠陥を補うために行なわれてきた。

公共事業省灌漑排水施工技術センター（CGSC）は、日本政府の技術協力計画の下、現場の技術者を対象に、一連の研修プログラムを成功裡に開設してきた。これにはインドネシア全域に点在する水資源開発プロジェクトから、初級および上級の施工監督技術者が2コースに参加している。

CGSCの研修コースにより、設立以来3年足らずで、多数の技術者が養成されている。この研修により、灌漑プロジェクト及び水資源開発プロジェクトにおける建設技術及びその応用のレベルが格段に向上している。

確立されている技術協力を継続し、CGSCの使用可能な施設を利用し、合わせてセンターの成果のあがっている経験を普及させるために、より一層のフォローアップが望まれている。そのためにもセンターの活動を、灌漑プロジェクト施工管理の分野の国際的なコースに拡大する可能性を検討することは有意義である。

インドネシアが開発途上国間技術協力（TCDC）計画の提唱者の1つとして、日本との二国間取極に基づき、開発途上国を対象とした上記コースをCGSCで開設することは、注目すべきことと考えられる。したがって、公共事業省水資源開発総局としては、水資源開発における国際的な施工管理コースを実施するため、CGSCの研修実施システムを強化している。

センターは、上質の仕様の機材と国際規格の寮付の施設を有し、一度に60名の参加者の収容（1室3名）が可能である。それゆえ、年1度の国際的な研修を実施することが、国内の長期研修プログラムに影響を及ぼさずに可能である。

3 コース内容

CGSCにおいては、水資源開発プロジェクトサイトの施工監督技術者を対象とした施工管理ジュニアコース（7週間、年2回実施）とシニアコース（5週間、年1回実施）が開設されているが、こうしたコース運営の経験をもとに、準備が進められている。両コースは灌漑排水技術の普及と技術者の養成を図るもので、第三国研修の灌漑排水技術コースは、シニアコースのカリキュラムを参考に、これの程度を高めた内容となっている。なお、シニアコース研修員の資格は、①国又は州政府灌漑プロジェクトの監督、又は②大学又は専門学校を卒業し、勤務経験2年以上の主任監督者への昇任予定者、である。

アセアン太平洋人造り協力緊急行動計画に基づくプロジェクト実施手続

- 1 ASEAN各国を実施サイトとする研修については、制度上JICA第三国研修制度（研修は実施機関を有する途上国政府が実施し、わが国は実施国外の研修員受入経費及び研修実施経費の負担ならびに研修の講師をつとめる短期派遣専門家の派遣等の協力を行う）により対応する。
- 2 わが国は、直接実施機関との間で、研修概要、規模、手続等に関するR/Dを作成・署名する。
- 3 R/D冒頭には、ASEAN太平洋人造り協力の一環として実施される旨、明記する。
- 4 割当国については、ASEAN中央事務局を通じ調整の上、決定する。
- 5 受入手続（コース・インフォメーションの送付、要請の取りまとめ、受入れ回答）はASEAN中央事務局を通じ行うが、迅速な手続の処理が不可欠である。
- 6 研修員の選考は、研修実施機関が行う。

インドネシア
灌漑排水施工技術センター
プロジェクトの概要

1985. 5. 1

Construction Guidance

Service Center Project (CGSO)

プロジェクト区分	JICA農業開発プロジェクト
プロジェクト名	インドネシア灌漑排水施工技術センター計画
プロジェクトの目的	インドネシア国の灌漑排水事業の施工技術力の向上を通じて事業の効率的遂行を促進し、食糧増産に寄与するため、施工技術センターを設置し、政府機関の灌漑技術者へ、施工技術の知識とその管理手法の技術移転を行う。
協力期間	無償援助：建物、主要設備の建設、総額15億円 技術協力：R/D、1981.2.19 協力期間：5ケ年、1981.4.1～1986.3.31
協力相手機関	公共事業省水資源総局灌漑第一局 灌漑排水施工技術センター
協力拠点、所在地	灌漑排水施工技術センター 西部ジャワ州、ブカシ(Bekasi)市 (ジャカルタ東方30km)

技術協力の内容

1 活動計画

R/Dのマスタープランに次のような6項目に係るセンターの主要活動テーマが定められている。

- (1) 灌漑排水事業の実施に係るオーバーオールなモニタリングシステムの開発と運用
- (2) 事業実施に係る技術者への技術情報サービスシステムの開発と運用
- (3) 施工の標準化
- (4) 施工に係る業務の電算化
- (5) 施工材料並びに施工法に係る調査、試験、水理構造物の調査、試験
- (6) 施工に係る現場技術者の研修

2 専門家派遣

長期派遣専門家6名の他、必要に応じて短期専門家が派遣されている。

長期専門家リスト

氏名	専門分野	派遣期間	国内所属機関
石坂 仁兵	総括	s.56.10.16～s.61.3.31	日本農業土木総合研究所
坂口 康雄	積算施工	s.59.11.11～s.61.3.31	農林水産省
溝口 昌宏	コンピューター	s.57.10.11～s.60.3.28	農林水産省
大木 巖	材料試験	s.57.6.7～s.61.9.31	JICA
土岐 昭義	水理造構	s.59.10.11～s.61.3.31	農林水産省
大久保雅彦	業務調整	s.57.4.8～s.61.3.31	JICA

短期専門家派遣実績

年度	人員	備考
57	5人	施工管理、ポンプ、ゲート、機械、モニタリング、マイクロフォト
58	7人	試験機械据付3人、モニタリング、マイクロフォト、情報システム2人
59	9人	マイクロフォト、電気機械、コンピューター(ハードウェア)、コンピューター(ソフト)、研修計画、情報システム、試験機器据付3人
60	8人	(計画) 研修計画、情報検索、ポンプ、コンピューター(ハード)、施用水理、施工2人、試験機器メンテナンス

3 カウンターパート受入研修実績

年度	人員	備考
56	3人	
57	4人	
58	4人	
59	4人	
60	6人	(要 請)

4 技術協力供与機材

専門家活動に必要な機材として協力期間中総額2億5千万円が予定され、逐次実施されている。

5 其他ローカルコスト支援事業

- (1) 屋外水理実験施設の建設(57年度モデルインフラ整備事業2千7百万円)
- (2) 中堅技術者養成対策等による定期技術者研修の支援(s57～)、施工に従事する現場担当技術者を対象に初級、上級の2コースを毎年定期的実施している。(現在までの受講者総数333名)
- (3) 建設機械施工試験トレーニンググラウンドの整備(59年度応急対策事業250万円)
- (4) 以上の他技術普及広報費、現地語教科書作成費等の支援を行い移転技術の普及浸透を図っている。

JICA